

# 渋川市 新市建設計画



小野上村（ひまわり）



子持村（きく）



伊香保町（つつじ）

やすらぎと  
ふれあいに満ちた  
“ほっと”なまち



赤城村（やまゆり）



渋川市（あじさい）



北橋村（ひまわり）

平成 16 年 12 月 渋川地区市町村合併協議会

平成 25 年 6 月 渋川市



# 目 次

<b>序論</b> . . . . .	1
1. 合併の必要性	
2. 策定方針	
<b>第1章 渋川地区の概況とまちづくりの課題</b> . . . . .	4
1. 概況	
2. 渋川地区の概況	
3. まちづくりの課題	
4. 地域別現況と課題	
5. 合併による効果とまちづくりの課題への対応	
<b>第2章 主要指標の見通し</b> . . . . .	22
<b>第3章 新市建設の基本方針</b> . . . . .	23
1. 新市建設の理念と将来像	
2. 新市建設の基本的施策	
3. 新市の将来都市構造（土地利用等）	
<b>第4章 主要事業</b> . . . . .	38
<b>第5章 新市における群馬県事業の推進</b> . . . . .	75
<b>第6章 公共施設の計画的統合整備</b> . . . . .	76
<b>第7章 財政計画</b> . . . . .	78
1. 財政計画の期間	
2. 財政計画	



# 序論

## 1. 合併の必要性

### (1) 総論

渋川市・伊香保町・小野上村・子持村・赤城村・北橋村（以下「渋川地区」といいます。）は、地理的にも歴史的にも共通の要素を持っている地域であり、住民相互の結びつきも緊密な地域です。これまで市町村の範囲を越えた広域的な連携として、消防、ごみ処理など17事業が広域組合として行われています。しかしながら、住民の方々の価値観や生活スタイルの多様化、少子高齢化の一層の進行、広域的な交通網の整備や情報通信手段の発達による生活圏の拡大化、更に急速に進展する国際化の波の中で、渋川地区を取り巻く社会環境は急速に変化していますが、今後も定住人口の確保や生活サービス等の充実とともに、地区の活力を支える新たな産業の確立や、安定した社会基盤の維持など、総合的かつ効率的に解決していくためには、これまでの交流・連携から一步踏み込んで進んで行くことが必要とされます。

そして、自分たちのまちのことは自分たちで決めるという地方分権が時代の潮流となる中で、自治体としての自立性や能力の向上に取り組むとともに、厳しい財政状況にも対応できる、たくましい行財政基盤の確立を図ることも必要です。

このような現状や課題に的確に対応していくためには、渋川地区の6市町村が一層連携して取り組む必要性が高く、この合併がその有効な対応策となるものと考えられます。

### (2) 各論

#### ①少子高齢化社会への対応

渋川地区の人口構成は少子高齢化が進行し、平成12年（国勢調査）の時点では、群馬県平均に比較して年少人口は下回り、老年人口は上回っています。

また、世帯あたり人員の減少などに見られるような単身化、核家族化等の進行もあり、少子高齢化が一層進むと考えられるなか、家族介護や子育てへの力の低下が懸念されるなど、高齢者への行政サービスの充実や子どもを健やかに育てる環境の整備について、行政の果たす役割が高まると予想されます。

こうした状況の中で、安心して暮らせる地域社会を支えていくためには、合併による、健全な財政運営と人材の確保や、サービスの安定提供の維持が求められます。

#### ②住民の様々な要望への対応

住民生活を支えるまちづくりは、これまで主に都市基盤の整備や各種公共公益施設の整備が施策の重点となっていました。

しかし、住民の行動範囲が広域化するとともに、情報技術の多様化、環境共生・省資源化社会への関心の高まり、住民同士の交流や、日常的な生活時間を重視するライフスタイルへの変化など、住民ニーズは多岐にわたり、まちづくりも様々な対応が必要といえます。

このような行政に対する住民の要望に的確に応えていくためには、合併による組織再編や、サービスの高度化、専門性が高められる体制づくりが求められます。

### ③生活圏拡大への対応

自家用車の普及や高速道路をはじめとする広域的な交通網の整備が進み、生活行動の範囲は行政区域単位を大きく超えるものとなっています。

こうした市町村域を超えた日常生活、行動圏の広がりに対応し、本地区の特性である高速道路インターチェンジ（IC）の立地、渋川市を中心とする利便性の高い鉄道・道路等の交通基盤を最大限に活かしながら、合併によって、広域的・一体的な交通環境づくりが求められます。

### ④特色ある新市づくり

渋川地区は、豊かな自然・温泉、歴史・文化性の高い地域で固有の貴重な資源にも恵まれています。近年の入込客数の伸び悩み（県内広域圏別には渋川地区が最も低い状況）、そして東京などの大都市観光化の側面や、国際化の進展による競争力も視野に入れていく必要があるなど、現状としては厳しい面が強くなっています。

一方、渋川地区に散在する資源の連携や充実によっては、地域の新しい魅力を引き出していく可能性も秘めていることから、合併によって各地域の役割の明確化やまちづくりとの連携を進め、新たな活力や魅力の創出が求められます。

### ⑤行財政運営の効率化

社会全体が低成長時代に入るとともに、国全体の財政は、税収が落ち込む中で、国・地方ともに多大な債務残高を有するなど極めて厳しい状況にあり、地方においては借入金残高が平成15年度末で約199兆円にのぼると見込まれています。

渋川地区においても、近年の決算額の落ち込みや地方債残高も約330億円（普通会計平成14年度決算）に達するなど、今後の財政運営は一層厳しくなるものと見込まれます。

このため、昭和46年から取り組んできた渋川地区広域市町村圏振興整備組合による事業の維持など広域連携を強化していくとともに、合併により、特に必要と認められる公共的施設の整備、合併市町村の地域住民の連携強化又は旧市町村の地域振興のための基金積立等に要する経費については、「合併特例債」をもってその財源とし、効率的な行財政運営を進める必要があります。

## 2. 策定方針

### (1) 計画策定の趣旨

本計画は「市町村合併の特例に関する法律」に基づき、渋川地区の新市のまちづくり基本方針を示し、合併市町村の建設を総合的かつ効果的に推進し、合併市町村の速やかな一体性の確立、住民福祉の向上、均衡ある発展に寄与することを目的に策定します。

なお、新市において策定される「総合計画（基本構想・基本計画・実施計画）」は、本計画を可能な限り尊重して策定するものとします。

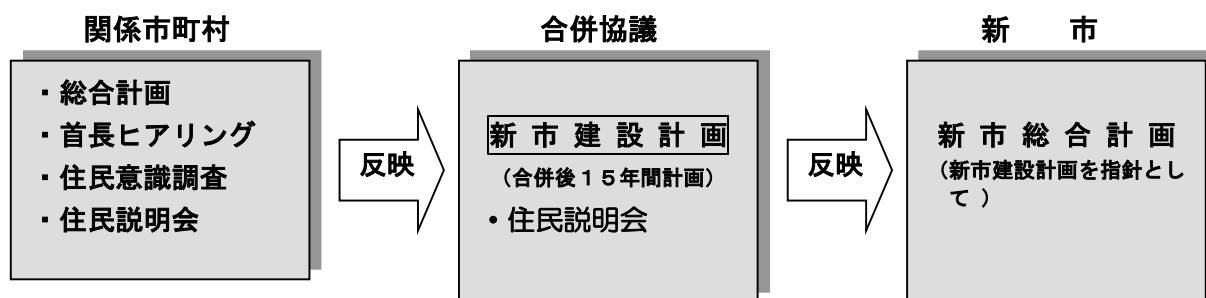
### (2) 計画の構成

本計画は、新市のまちづくりを進めていくための将来像等を示す「新市建設の基本方針」、基本方針の実現に向けた「主要事業（施策）」、「公共施設の計画的統合整備」及び「財政計画」を主項目として構成するものとします。

なお、「主要事業（施策）」は、新市において策定される総合計画の「実施計画」の策定作業や予算編成作業において、社会経済情勢等を考慮しながら本計画を指針として事業選択され、実施されます。

### (3) 計画の期間

本計画は、長期的視野に立った計画であり、平成18年度から平成32年度までの15年間の計画とします。



# 第1章 渋川地区の概況とまちづくりの課題

## 1. 概況

### (1) 位置と地勢

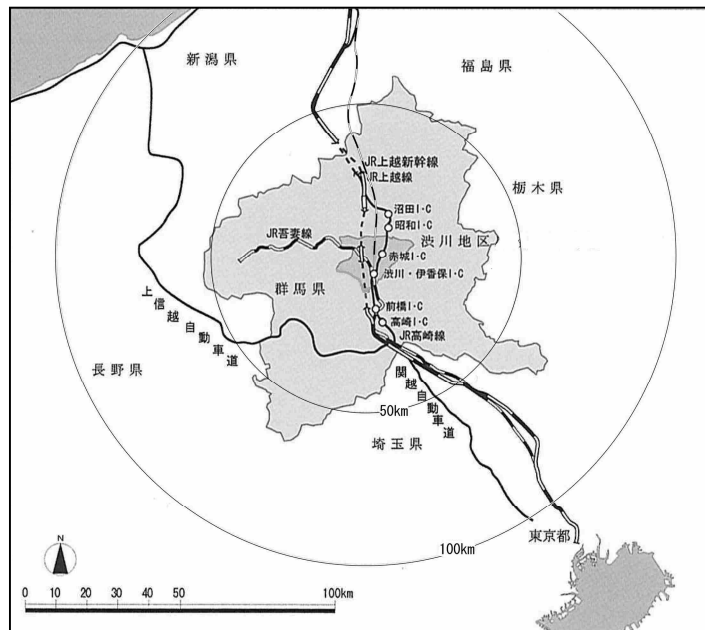
渋川地区は、日本そして群馬県のほぼ中央部、雄大な関東平野の始まる位置にあたり、古くから交通の要衝として栄え、豊富な水資源を活かした工業、山地の開拓による農業や、首都圏の奥座敷となる観光・温泉などを主要産業としてきました。

地区の南側は県都前橋市に隣接し、東京都心まで120km（高速道路（関越自動車道渋川伊香保IC）利用で約2時間、JR上越線及び新幹線利用で約1時間10分）の距離にあります。

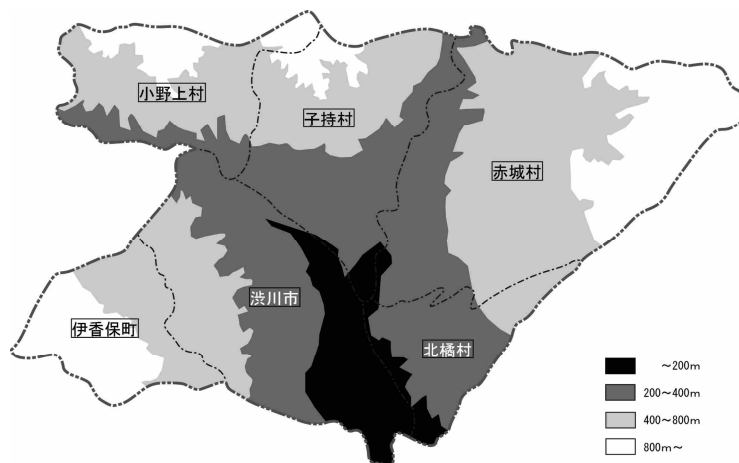
主な交通網としては、JR上越線、JR吾妻線の2路線が通り、渋川地区にはJR上越線の4駅、JR吾妻線には4駅があります。また道路としては、南北に関越自動車道と国道17号、東西に国道353号が通り、関越自動車道には渋川市と赤城村にICがあります。

地形は赤城山、榛名山、子持山、小野子山に抱かれ、利根川と吾妻川の流れによって形成された谷地とともに、標高差が概ね600m以上となる起伏に富んだ地形を有し、地区の大半が自然的土地利用で占められています。

#### ■ 渋川地区の位置



#### ■ 地形



## (2) 変遷

渋川地区は明治の大合併時に2町9村となり、昭和29～35年（昭和の大合併）に現在の市町村単位となっています。

	明治期（22年）	昭和期	平成16年12月現在
渋川村 →	渋川町	渋川市(29年)	渋川市
金井村、南牧村、阿久津村、川島村、祖母島村 →	金島村		
有馬村、八木原村、半田村 →	古巻村		
湯上村(行幸田)、石原村、中村 →	豊秋村		
(伊香保村、湯中子村、水沢村) →伊香保村 →	伊香保町		伊香保町
小野子村、村上村 →	小野上村		小野上村
上白井村、中郷村 →	白郷井村	子持村(35年)	子持村
横掘村、北牧村、吹屋村、白井村 →	長尾村		
持柏木村、溝呂木村、北上野村、勝保沢村、見立村、滝沢村、上三原田村、三原田村、樽村、宮田村 →	横野村	赤城村(31年)	赤城村
津久田村、猫村、長井小川田村、深山村、棚下村 →	敷島村		
箱田村、上箱田村、真壁村、八崎村、分郷八崎村、小室村、上南室村、下南室村、下箱田村 →	北橋村		北橋村

## (3) 面積等

渋川地区の面積は240.42km<sup>2</sup>、また山々に囲まれた地形特性から可住地面積は、全体のおよそ48%となっています。

## 2. 渋川地区の概況

### (1) 人口・世帯等

#### ① 渋川地区の状況

平成12年国勢調査の総人口は89,795人で、平成2年との比較では、実数としてやや減少していますが、動向としては大きな変化は見られません。

世帯数は28,685世帯、1世帯あたりの人員数は3.13人で、平成2年と比較すると世帯数は約10%増加しています。

年齢別人口は0～14歳13,258人(14.8%)、15～64歳58,447人(65.1%)、65歳以上18,090人(20.1%)となっています。

就業人口(第1次～3次人口の総和)は44,697人で、第1次産業3,908人、第2次産業14,344人、第3次産業26,445人となっています。群馬県平均と比較すると第1次産業、第3次産業従業者の率がやや高くなっています。

これらを平成2年と比較すると第1次産業及び第2次産業従事者は減少し、第3次産業従事者はわずかながら増加しています。

#### ■ 人口・世帯等の状況

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人 口	91,094	91,162	89,795	87,469	83,330
0～14歳	17,095 (18.8)	14,967 (16.4)	13,258 (14.8)	11,707 (13.4)	10,175 (12.2)
15～64歳	61,256 (67.2)	60,517 (66.4)	58,447 (65.1)	55,490 (63.4)	50,843 (61.2)
65歳以上	12,743 (14.0)	15,678 (17.2)	18,090 (20.1)	20,271 (23.2)	22,087 (26.6)
世帯数	26,175	27,771	28,685	29,257	29,290
1世帯あたり人員	3.48	3.28	3.13	2.99	2.84
産業別就業者数	45,583	46,574	44,697	43,248	39,594
第1次産業	5,620 (12.6)	4,640 (10.0)	3,908 (8.7)	3,695 (8.8)	2,857 (7.2)
第2次産業	15,787 (34.6)	15,494 (33.2)	14,344 (32.1)	12,758 (29.5)	11,249 (28.4)
第3次産業	24,176 (52.8)	26,440 (56.8)	26,445 (59.2)	26,795 (62.0)	25,488 (64.4)

資料：国勢調査 ※年齢別人口は不詳を含む

#### ② 構成市町村別の状況

同様の条件で構成市町村別の状況を見てみると概ね地区全体と同様ですが、人口については伊香保町の減少(11%)と北橘村の増加(8%)、小野上地域での高齢化(65歳以上人口率27.6%)などに特徴が見られます。

■人口の推移

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
実数 (単位:人)	渋川市	49,062	49,167	48,761	47,961	45,655
	伊香保町	4,593	4,555	4,077	3,762	3,362
	小野上村	2,364	2,250	2,140	1,994	1,804
	子持村	12,174	12,141	11,961	11,722	11,589
	赤城村	13,366	13,021	12,555	11,981	11,063
	北橋村	9,535	10,028	10,301	10,049	9,857
	合計	91,094	91,162	89,795	87,469	83,330
平成2年比 (%)	渋川市	100	100	99	98	93
	伊香保町	100	99	89	82	73
	小野上村	100	95	91	84	76
	子持村	100	100	98	96	95
	赤城村	100	97	94	90	83
	北橋村	100	105	108	105	103
	合計	100	100	99	96	91

■世帯数の推移

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
実数 (単位:世帯)	渋川市	15,056	15,982	16,580	17,019	17,034
	伊香保町	1,906	2,033	1,847	1,704	1,584
	小野上村	573	582	581	586	584
	子持村	3,113	3,284	3,473	3,570	3,713
	赤城村	3,247	3,342	3,435	3,462	3,452
	北橋村	2,280	2,548	2,769	2,816	2,923
	合計	26,175	27,771	28,685	29,157	29,290
平成2年比 (%)	渋川市	100	106	110	113	113
	伊香保町	100	107	97	89	83
	小野上村	100	102	101	102	102
	子持村	100	105	112	115	119
	赤城村	100	103	106	107	106
	北橋村	100	112	121	124	128
	合計	100	106	110	111	112

■世帯当たり人数の推移

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
実数 (単位:人)	渋川市	3.26	3.08	2.94	2.82	2.68
	伊香保町	2.41	2.24	2.21	2.21	2.12
	小野上村	4.13	3.87	3.68	3.40	3.09
	子持村	3.91	3.70	3.44	3.28	3.12
	赤城村	4.12	3.90	3.66	3.46	3.20
	北橋村	4.18	3.94	3.72	3.57	3.37
	合計	3.48	3.28	3.13	3.00	2.84

■年齢別人口の推移

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	
実数 (単位:人)	渋川市	0-14歳	9,232	8,228	7,444	6,697	5,830
		15-64歳	33,604	33,116	32,133	30,819	28,096
		65歳以上	6,226	7,823	9,184	10,444	11,582
	伊香保町	0-14歳	601	516	475	412	297
		15-64歳	3,372	3,325	2,775	2,387	1,979
		65歳以上	620	714	827	963	1,038
	小野上村	0-14歳	467	362	302	238	166
		15-64歳	1,455	1,354	1,248	1,171	1,088
		65歳以上	442	534	590	585	550
	子持村	0-14歳	2,311	2,028	1,764	1,630	1,497
		15-64歳	7,944	7,905	7,718	7,308	6,968
		65歳以上	1,919	2,208	2,479	2,784	3,100
	赤城村	0-14歳	2,553	2,084	1,719	1,419	1,151
		15-64歳	8,650	8,289	7,885	7,344	6,621
		65歳以上	2,163	2,648	2,951	3,218	3,289
	北橋村	0-14歳	1,931	1,749	1,554	1,311	1,234
		15-64歳	6,231	6,528	6,688	6,461	6,091
		65歳以上	1,373	1,751	2,059	2,277	2,528
	合計	0-14歳	17,095	14,967	13,258	11,707	10,175
15-64歳		61,256	60,517	58,447	55,490	50,843	
65歳以上		12,743	15,678	18,090	20,271	22,087	

■就業別人口の推移

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	
実数 (単位:人)	渋川市	第1次産業	1,227	1,160	906	910	645
		第2次産業	8,376	8,135	7,332	6,537	5,896
		第3次産業	13,968	15,234	15,056	15,309	14,632
		総数	23,571	24,529	23,294	22,756	21,173
	伊香保町	第1次産業	43	32	44	31	27
		第2次産業	319	340	247	238	217
		第3次産業	2,642	2,661	2,294	1,976	1,610
		総数	3,004	3,033	2,585	2,245	1,854
	小野上村	第1次産業	259	209	216	193	136
		第2次産業	499	430	399	350	320
		第3次産業	491	520	497	518	477
		総数	1,249	1,159	1,112	1,061	933
	子持村	第1次産業	1,200	1,024	842	844	709
		第2次産業	2,359	2,286	2,150	1,865	1,652
		第3次産業	2,600	2,945	3,143	3,367	3,376
		総数	6,159	6,255	6,135	6,076	5,737
	赤城村	第1次産業	1,786	1,369	1,164	1,016	737
		第2次産業	2,450	2,410	2,316	2,072	1,664
		第3次産業	2,523	2,777	2,863	2,882	2,708
		総数	6,759	6,556	6,343	5,970	5,109
	北橋村	第1次産業	1,105	846	736	701	603
		第2次産業	1,784	1,893	1,900	1,696	1,500
		第3次産業	1,952	2,303	2,592	2,743	2,685
		総数	4,841	5,042	5,228	5,140	4,788
	合計	第1次産業	5,620	4,640	3,908	3,695	2,857
		第2次産業	15,787	15,494	14,344	12,758	11,249
		第3次産業	24,176	26,440	26,445	26,795	25,488
		総数	45,583	46,574	44,697	43,248	39,594

## (2) 通勤通学流動

平成12年国勢調査の通勤流動をみると、渋川市への流入が1,000人以上となっているのが、前橋市、子持村、吉岡町、赤城村となっており、渋川地区内では東部と渋川市との結びつきが高いことが伺えます。また渋川地区以外では、前橋市との流動が多く見られます。

また、通学流動については、渋川地区内での流入先は概ね渋川市となっていますが、地区外では前橋市、高崎市への流出も多くみられます。

■通勤流動状況

	年度	通勤者	域内%	渋川市	伊香保町	小野上村	子持村	赤城村	北橋村	前橋市	高崎市	吉岡町	沼田市
渋川市	H12	24,651	57		657	102	575	379	317	3,052	1,235	695	
	H17	23,871	54.4		610	77	572	386	289	3,166	1,233	802	309
	H22	37,798	69.7							5,822	2,877	1,134	648
伊香保町	H12	3,566	54.7	246						102			
	H17	3,106	51.6	236						108			
小野上村	H12	954	62.3	170									
	H17	803	64.8	163									
子持村	H12	4,269	63.7	1,360	107			186		682	260		136
	H17	4,029	62.9	1,365	106			166		735	232		159
赤城村	H12	4,990	66.7	1,066			172		206	761	191		
	H17	4,565	65	989			170		201	810	186		
北橋村	H12	3,898	57.7	837				204		1,094	211		
	H17	3,799	55.4	744				180		1,177	219		
前橋市	H12			1,561	122		119	176	480				
	H17			1,708	109		111	196	543				
	H22			3,322									
沼田市	H12						108	156					
	H17			600	20		90	150					
	H22			920									
吉岡町	H12			1,089	117	-	-	-	-	-	-	-	-
	H17			1,142									
	H22			1,648									
富士見村	H12								149				
	H17								163				

資料：国勢調査(平成12年)より作成  
県内上位都市及び100人以上で表示

■通学流動状況

	年度	通学者	域内%	渋川市	伊香保町	小野上村	子持村	赤城村	北橋村	前橋市	高崎市	中之条町	桐生市
渋川市	H12	7,712	73.4							504	237	59	67
	H17	6,725	73.1							483	314	31	54
	H22	9,112	85.1							943	708	56	66
伊香保町	H12	279	99.3	57									
	H17	273	100	54									
小野上村	H12	209	100										
	H17	168	99.4	18									
子持村	H12	1,287	94.2	181						151	78		
	H17	1,097	94.3	161						123	73		
赤城村	H12	1,180	99.8	216						171	86		
	H17	992	99.1	180						147	82		
北橋村	H12	1,069	99.7	208						191	69		
	H17	907	99.4	168						166	60		
前橋市	H12			245									
	H17			203									
	H22			310									
吉岡町	H12			209									
	H17			166									
	H22			154									
吾妻町	H12			186									
	H17			158									
東吾妻町	H22			138									

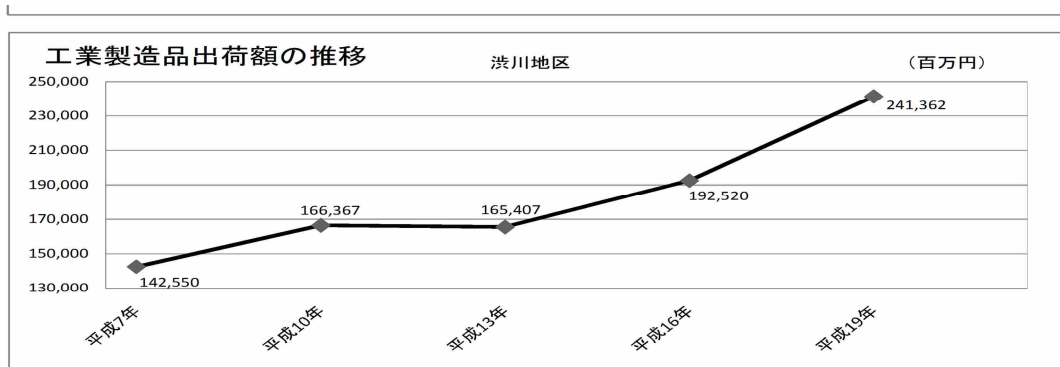
資料：国勢調査(平成12年)より作成  
県内上位都市及び50人以上で表示

### (3) 産業

渋川地区の産業動向についてみると、農業産出額が平成13年現在（農林水産統計）で14,454百万円、小売販売額が平成14年現在（商業統計）で106,137百万円、工業製品出荷額が平成13年現在（工業統計）で165,407百万円となっています。各指標とも年ごとの増減はあるものの概ね横ばいであり、大きな変化は見られません。

構成市町村別には赤城村、北橘村における1人当り農業産出額の高さと、渋川市における小売販売額、工業製品出荷額の高さに特徴が見られます。

#### ■産業動向



#### ■一人当たり額

	一人当たり(万円/人)	
農業産出額	平成13年	16.09
	平成18年	17.07































































# 新市のプロジェクト（15年後の未来像）

◎6つの重点プロジェクトから、4つの根幹となる事業を進めるとともに、2つの新市の地域特性となっている共通の資源である自然・歴史・文化を活かしたまちづくりに取り組みます。

「日本のまん中」である新市の地域特性を生かしたまちづくり

## ★自然と地域資源を生かした観光ネットワークの創出

◎観光資源の掘り起しと連携強化



◎活力ある商業地づくり



## ★次世代育成のための教育環境整備

◎高等教育機関誘致



◎地域文化等の継承



●公共交通網と幹線道路整備

●いきいき暮らせる安全・安心なまちづくり

●IT社会に対応した情報基盤整備

●たくましい行財政基盤の確立

新市の一体性の確立や住民福祉の向上、くむべき根幹となる4つの事業、均衡ある発展に向けて、共通にとり

○人にやさしく便利で快適なまちづくり

○美しく豊かな自然と共生するまちづくり

○快適でやすらぎのあるまちづくり

○健やかで温かな暮らしのあるまちづくり

○豊かな心と個性ある伝統・文化を育むまちづくり

○地域資源と連携による活力あるまちづくり

○参加とふれあいで築くまちづくり

○協働と効率化を進めるまちづくり

### 《新市づくりの方向》

やすらぎとふれあいに満ちた“ほっと”なまち

















































































